

令和7年度 第1回綾瀬高等学校学校運営協議会【議事録】

日 時：令和7年6月24日（火）15:30～17:00

会 場：会議室

1 開会

2 校長あいさつ

学校運営協議会制度は社会に開かれた教育課程の実現のために大事な組織。今年度の教育活動の取り組みについて各担当より説明するので忌憚のないご質問ご意見ご指摘等いただきたい。

3 委員の紹介及び委嘱

4 職員紹介

5 会長選出

6 協議

(1) 綾瀬高校学校概要（校長）

「カリキュラムマネジメント概念図」について

(2) 学校教育計画（副校長）

「神奈川県立綾瀬高等学校グランドデザイン」について

県からのスクールミッションをもとに学校教育目標を定めている。

「学校教育計画」について

4年間の計画（令和6～9年度）の2年目にあたる。この計画をもとに単年度で学校目標を設定。

*令和7年度学校目標は令和6年度学校評価報告書を受けて作成。

(3) 令和7年度 学校目標（各担当総括）

①教育課程・学習指導（学習支援G）

- ・電子黒板や一人一台端末（導入から4年目）等のICT機器を効率的に活用していく。
- ・授業づくりを研究し組織的な授業改善に努める。

②生徒指導・支援（生活支援G、生徒会・広報G）

- ・他者を思いやり尊重する心を育む
- ・サポートデスク、SCやSSW等の教育相談体制、職員間で情報共有し、支援を要する生徒に早期に対応する。
- ・部活動の満足度を上昇させる取組を実施し、部活動や校外活動の状況等を効果的に発信していく。
- ・生徒が地域行事や学校行事に主体的に参加できるようサポートする。

③進路指導・支援（進路支援G）

- ・生徒が主体的に進路の目標設定を行えるよう支援する。（昨年度は93%が年内入試で進路決定）
- ・民間Web教材をうまく活用していく。

・総合的な探究の時間は、自分の将来に密接に関係した個人探究を中心とし、近隣の大学等にも協力いただくことを考えている。

④地域等との協働（学校管理G、生徒会・広報G）

- ・学校運営協議会の意見を教職員につなげ、有効に活用したい。
- ・近隣の学校や福祉施設等との交流を推進し、学校の取組（部活動が地域で発表していることなど）を積極的に発信することで、地域の人々とともに歩む学校づくりの推進を図る。

⑤学校管理、学校運営（インクルーシブ教育推進G〈代：副校長〉、学校管理G、教頭）

- ・インクルーシブ教育実践推進校（6年目）として、共生社会の実現に引き続き取り組む。
- ・インクルーシブ教育に関する校内研修を実施し、共生社会について理解を深める。
- ・学校が安心・安全な学びの場となるよう事務と連携し教育環境を整備する。
- ・災害時対応のマニュアルを活用し、防災訓練を実施する。
- ・職員の働き方改革を進め、業務の精選や削減につなげ、職員のライフワークバランスを良いものにする。

例）学校電話機の自動応答システム・録音システムを導入し、職員業務負担軽減を図るなど。

（4）不祥事ゼロプログラム（副校長）

「令和7～9年度 綾瀬高校不祥事ゼロプログラム」について

今年度より3か年計画を立案。（県の指示に則った10項目）

検証方法 9月末までに実施状況を確認し、さらに各年度最終検証を実施。（必要があればプログラム修正）

不祥事防止研修の実施。（職員会議時）

（5）意見聴取と協議（○委員 ●職員）

○ SSWの活用状況は？

● SSWとSC合わせて週2回来校、利用頻度は高い。希望としては人を増やして効率良くしたい。

○ 部活動未加入者は何をしているのか？

● 部活動加入者は約55%、未加入者はアルバイトが多い。家庭の経済状況が理由の場合もあるので、全てをネガティブには捉えていない。できるだけ多く部活動に入って欲しいとは願っている。

○ 個人探究のテーマは何を選んでいるか？

● 3年生の取組み

昨年度は学校生活を過ごした体験から綾瀬高校の魅力についてまとめ、学校説明会で使えるプレゼンテーションをめざし作成。今年度は自分の将来や進路について考え、総合型選抜にも生かせるよう専門分野について調べて発表準備している（1年生は「探究」の意味や意義について考えることから、2年生は綾瀬市が抱える課題を解決できるようなイベントを前期はグループ探究中）

○ 自転車の乗り方について 生徒への周知の方法は？

● ヘルメット着用の努力義務について呼びかけているが、着用者は少ない。秋には綾瀬市の警察による交通安全教室を予定。自転車乗車マナーの苦情に対してはその都度注意喚起している。

○ どんな方法で基礎学力を補っているか？

● 基礎学力向上のための模試を実施し、その補いとして業者の学習アプリも活用している。また、教員が

生徒の個別の質問に随時対応している。

- 小中学校では不登校児童・生徒が増えている。高校の状況は？
- 欠時数が多く、履修に満たないこともある。全日制での継続が難しい場合には、進路の方向性を共に考え、通信制への転出を進めるケースもある。
- インクルーシブ教育のTT（ティームティーチング）について。具体的には？
- 国数英理で実施、学年によって差はあるがT1の教員が主に授業を担当し、T2の教員が特別募集の生徒を中心に見ている。卒業後に必要な能力を身に付けるキャリアの授業を実施 生活面では支援担任（担任・副担任以外に）を置いてメインで見ている。また支援員が各学年のリソースルームで待機。
- 特別募集生徒の入学時と現在の違いについて。
- 入学してみてイメージが違う場合もあり、転学・退学等する生徒もいた。
本校では希望者には取り出しの授業がある。中学校への説明も引き続きしていきたい。
- 自治会や福祉施設が、部活動生徒と協働したい場合の窓口はどこか？
- 生徒会広報グループへ。
- 部活動への加入率が半数程度ということだが、将来外部委託は考えているか？
- 部活動インストラクターをお願いしながら現状で続けていく。
- インターンシップの具体的内容は？
- 地区で集約したインターンシップ受け入れ一覧を生徒に周知。希望者が実施する夏休み期間が中心。
受験の際インターンシップの経験が生かされている。警察や消防も増えている。
- 自転車の乗り方についてマニュアル作成の必要性があるのでは？
- ぜひ整備したい。交通安全教室等の行事や関連授業での周知をしていく。
- 小中学校では、学校に足が遠のいている場合、欠席したら家庭訪問。学校に来て教室に入れない生徒に対しては、別室を確保して人を配置。家庭に足を運ぶこと、また1人1台端末を利用し授業を家庭で見ってもらうなどして、短時間でも登校するようなステップを踏みながら、保護者との信頼関係を築いている。
- 綾瀬市では登校支援対策委員が配置され家庭訪問もでき、小学校では高い効果を上げている。

7 報告事項 なし

8 その他 なし

9 閉会